

～もっと知りたい人のために～

CAP児童養護施設プログラムについて

CAP児童養護施設プログラムの概要

CAP児童養護施設プログラムとは、児童養護施設という場において、施設職員と子どもたちと地域のおとなに対して実施するCAPプログラムです。施設職員ワークショップ、子どもワークショップ、地域セミナーの3種類あり、この3つで効果を発揮します。現在、多くのCAPグループがCAP児童養護施設プログラムに取り組み、施設にCAPプログラムを届けています。

基本的には、学校で行うCAPプログラムのガイドラインを遵守しています。施設職員ワークショップは、学校で行う場合の教職員ワークショップに当たり、一番先に実施します。子どもワークショップは、施設職員との打ち合わせをしっかりと行い、グループ分けや人数、実施する時間帯などに配慮をしますが、特別視しないように心がけています。児童養護施設の子どもたちは、自分の体験と重なり不安定になるのではないかというおとな的心配をよそに、たくましく元気に参加してくれます。

表：CAP児童養護施設・子どもワークショップの枠組み

〔出典：CAPセンター・JAPAN（2005）『子どもの気持ちにより添って CAP児童養護施設プログラム』〕

年齢	3～6才	7才 小1	8才 小2	9才 小3	10才 小4	11才 小5	12才 小6	13才 中1	14才 中2	14才 中3
プログラム		就学前 30分×3日			小学生 45分×2日				中学生 50分× 2×2日	
人数	10人 以下	10人～15人				15人以下				

CAP児童養護施設プログラムのオリジナル　一地域セミナー

地域セミナーは、CAP児童養護施設プログラムならではのオリジナルなプログラムです。施設職員ワークショップ・子どもワークショップの後に、児童養護施設という場で施設のまわりの地域のおとなに対して実施します。地域セミナーでは、CAPの話を共有した後に、CAPを経験した施設職員の話があり、その後参加者が意見交換を行います。施設職員、児童相談所、子どもの通う学校の教職員や保護者、地域で子育て中の親、民生児童委員、里親、施設のボランティアなど様々な人たちが、児童養護施設という同じ場に集い、CAPの理念を共有し、率直に意見交換する中で、顔と顔とが見える関係を作る良い機会になります。

児童養護施設におけるCAPの可能性

虐待や不適切な養育が理由で入所した子どもたちには、自己や他者に対するマイナスのイメージが少なくありません。子どもたちに、「あなたは人として尊重される大切な人」ということを「安心・自信・自由」というわかりやすい言葉で一人ひとりに丁寧に伝えることが、児童養護施設で CAP を実践する一番大きな意義だと考えます。同様に、「困ったときは信頼できる人の力を借りてもいいよ。相談していいんだよ」というメッセージを伝えることは、子どもと施設職員とをつなぐ役割を果たします。そして、できることではなく、できることと一緒に考えることにより、ともすれば無力感に陥りがちな子どもたちに「あきらめない」というメッセージを伝えることは、子どもの今後の人生において大きな力になるでしょう。

(CAP 児童養護施設プログラム責任者 西野緑)

【参考文献】

CAPセンター・JAPAN (2005) 『子どもの気持ちにより添って CAP 児童養護施設プログラム』

西野緑 (2008) 「CAP 児童養護施設プログラム～すべての子どもに安心・自信・自由を！」『季刊児童養護』, 38 (3), 43–45, 全国児童養護施設協議会.

西野緑 (2009) 「すべての子どもに安心・自信・自由を！～CAP 児童養護施設プログラムの開発・実践・普及～」『児童養護施設の子どもと人権』, CAP にいがた.